

特集★日本酒フェア2009

**日本酒ファン待望のビッグイベント、今年も大盛況！
公開きき酒会 & 全国日本酒フェアのダブル企画で、パワー全開**



日本酒ファン待望のビッグイベント「日本酒フェア 2009」が、6月 17 日、東京豊島区の池袋サンシャインシティで開催されました。(独法)酒類総合研究所と日本酒造組合中央会共催の「平成 20BY 全国新酒鑑評会公開きき酒会」& 日本酒造組合中央会単独主催の「第 3 回全国日本酒フェア」という豪華ダブル企画に、新たな趣向も加えて、今年もパワー全開！



平成 20BY 全国新酒鑑評会公開きき酒会(上)と第3回全国日本酒フェアの会場風景

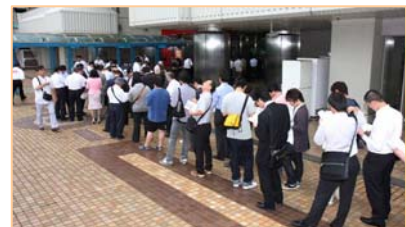
★ 回を重ねて注目度アップ。コアな日本酒ファンも満足



関係者全員そろってオープニングのテープカット。左から土井清酒技術委員長、酒類総研の平松理事長、辰馬会長、佐浦需要開発委員長。日本酒のPRキャラクター・おちょこくん（右端）も特別参加。

「日本酒フェア2009」は、独立行政法人酒類総合研究所（酒類総研）と日本酒造組合中央会（中央会）の清酒技術委員会・需要開発委員会の連携で企画・開催する、文字どおり酒造関係者渾身のイベント。一昨年の第1回開催以来、その注目度は年々大きくなっており、今回も開会を待ちかねた来場者が時間前から会場入口の外まで長蛇の列を作るなど、コアな日本酒ファンをも唸らせる強力イベントのカンロクを見せつけました。

今回は、「公開きき酒会」が10時～20時（会場＝サンシャインシティのワールドインポートマート4F展示ホール）、「全国日本酒フェア」が11時～20時（同文化会館4展示ホール）の開催で、特に「公開きき酒会」では、混雑緩和のため再入場を禁止する完全2部入替制（第1部＝10時～13時、第2部＝16時～20時）を導入。また、「全国日本酒フェア」では、初の試みとして、きき酒方法や日本酒活用法などをテーマにした「日本酒セミナー」も実施するなど、来場者に思う存分イベントを楽しんでもらうための工夫も新たに加えられました。時節柄、両会場とも入口前に手の消毒コーナーを設けて、インフルエンザ対策も万全。



開会前から長蛇の列がー



今年もメディア関係者から熱い注目

午前10時45分から行われたオープニング・セレモニーでは、中央会の辰馬会長と酒類総研の平松理事長が、「セミナーを聞き、蔵元と交流すれば、今日一日で皆さんもお酒博士になれる」（辰馬会長）、「昨年は暖冬で酒造りが難しかったが、全国の杜氏が巧の技を発揮して最高の酒質になった。心行くまでその味を堪能してほしい」（平松理事長）と、それぞれ主催者代表の挨拶を行った後、関係者全員でテープカットを行って、待ちに待ったイベントの幕を切って落としました。

「平成 20BY 全国新酒鑑評会 公開きき酒会」の様相



入場前にまず手の消毒。インフルエンザ対策を済ませてから、地域別に配置されたテーブルで、きき酒スタート。

★ 女性のグループやカップルも。寛ぎのきき酒風景

我が国唯一の全国規模の清酒鑑評会として明治 44 年にスタートして以来、通算 97 回目を迎えた全国新酒鑑評会。平成 20BY の鑑評会では、総出品点数 920 点のうち 456 点が入賞（うち 249 点が金賞）を受賞しています。その入賞酒のほぼ全点（452 点）をまとめて一挙に公開したのが、この「公開きき酒会」。

鑑評会を主催する酒類総研では、酒造・流通関係を対象とした製造技術研究会（全出品酒の試飲会）を 5 月 27 日に東広島市で開催していますが、一般の日本酒ファンも含めて入賞酒を網羅的に試飲できるのは、これが唯一のチャンス。この冬に仕込まれた最高水準の吟醸酒を余すところなくきき酒できるとあって、会場には今年も多勢の日本酒ファンが詰め掛けました。

地域別 8 ブロックに整理された会場内では、流通・料飲関係者らお酒のプロに混じって、女性のグループや若者のカップルなどが寛いだ様子で楽しそうにきき酒して回る姿も目に付きましたが、中には「去年まで東広島の研究会に出ていたが、今年は全国日本酒フェアもあるのでこっちに参加した。会場がすっきりしていて、きき酒しやすい雰囲気」という声もあって、完全入換制の効果もしっかり確認された様子。

会場の一画では酒類総研の特製吟醸酒なども公開されましたが、担当者の話では「やはり地域別の香味の特性に関する質問が多い。日本酒は地域性の豊富な酒と認識されている」とのことでした。



酒類総研特製の吟醸酒も話題に

「第3回全国日本酒フェア」の様相



蔵元とのコミュニケーションも大きな楽しみ。両手に余るほど日本酒を買い込んで、最後はアンケートに回答。

各県アイデアを凝らして県産酒アピール

中央会が単独で主催した「第3回全国日本酒フェア」には、全国45都道府県の酒造組合（連合会）のほか、日本酒ライスパワーネットワーク、長期熟成酒研究会など関係4団体が出展。各県自慢の吟醸酒や純米酒、本醸造酒、さらには日本酒ベースのリキュールやお燗酒などを含めて、約800点の試飲や販売を行いました。

「全国日本酒フェア」は、蔵元関係者と一般の消費者が直接コミュニケーションできる貴重な場であると同時に、各出展者が独自のアイデアで地域性をアピールするのも見所のひとつ。今回も、赤提灯を吊るした居酒屋風やシックなショットバー風、クラシックな蔵造りなど様々なディスプレイのブースが並ぶ中、法被姿や戦国武者風に装いを凝らした蔵元関係者、和服姿の女性担当者などが来場者に応対。中には、景品の当たる抽選会やエコバッグの販売などで特色を出す県もあって、来場者は、それぞれの趣向を楽しんだり、蔵元の商品説明に耳を傾けたりして、閉会時間の8時ぎりぎりまで、会場をめぐり歩きながら好みの銘柄を探し求めていました（各ブースの出展風景は6～7頁に）。

● 初の「日本酒セミナー」で、高橋理事と木村克己氏が講演

今回初の試みとして実施された「日本酒セミナー」では、中央会の高橋理事（右の写真上）と日本酒スタイリストの木村克己氏が30分間のミニ講習を行いました（各2回ずつ）。

高橋理事のお話は「日本酒の味が一層楽しめるきき酒の方法」と題して、きき酒名人になるためのコツを具体的なポイント（定量を舌全体に行き渡らせ、感じたイメージを連動させる、など）を示しつつ伝授したものの。一方、木村氏のお話は、「日本酒一滴 生活素敵 キャンペーンについて」と題し、日本人1人当たり1日1ccの日本酒を飲用以外で生活の中に取り入れ、新たな日本酒需要を創造しようと呼びかけたもので、炊飯や味噌汁、魚肉の調理や入浴など、生活の様々な場面で日本酒が役立つことに参加者も興味津々の面持ち。両セミナーとも、定員オーバーで立見も出るほどの盛況で、日本酒フェア初の試みは、来場者への恰好の話題提供の場となったようです。



★ 来場者のひと言

【平成 20BY 全国新酒鑑評会公開き酒会の会場から】

- ・香川県で日本酒と本格焼酎のバーを経営している。去年までは東広島市の製造技術研究会に参加していたが、今年は「全国日本酒フェア」があると聞いて、こちらに参加してみた。四国は去年の酒造りは気候的に難しかったが、その割にはよくできた酒が多いと感じた。他の地域の酒も素晴らしい。きき酒の会場はとてもすっきりしていて、試飲しやすいと感じた。このイベントは、鑑評会入賞酒の一般公開だけでなく、「全国日本酒フェア」とセットになっている点が何よりの魅力だ(料飲店経営、女性)。
- ・初めて参加した。東京(世田谷)で酒販店をやっているが、最近の日本酒は造るほうも飲むほうも、普及用と高級酒の二極分化が進んでいると感じている。この場で、高級化の流れを確かめて、品揃えの参考にしたい。地域ごとに分かれているので、それぞれの特徴がつかみやすいのは助かる。会場も見やすいと思う(酒販店経営、男性)。
- ・毎年来ている。鑑評会の入賞酒をきき酒できるのはこれしかないので、日本酒好きにはたまらないイベントだ。とてもありがたい。会場は、去年に比べて確かに回り易くなったが、人気のある地域に人が溜まって流れないので、そういう地域はできるだけテーブルを増やして人の流れをよくしてほしい。不公平のようでも、そのほうが全体に人が流れて結局公平になるのでは？(一般、女性)



【第3回全国日本酒フェアの会場から】

- ・居酒屋に勤めている。店長に日本酒を勉強してこいと言われて参加した。各県のいろいろな酒が試飲できてとても勉強になる。日本酒セミナーも参考になった。きき酒を店のアミューズメントとして活用できないかとか、お燗のバリエーションを増やして差別化できないかとか、いろいろ考えた。帰って店長と相談します(料飲店勤務、女性)。
- ・日青協のブースでIWCの金賞受賞酒というのを試飲した。日本酒ってほんとに面白いと思う。どんどん世界に広がってほしい。海外旅行をした時に日本酒のことを聞かれても答えられるように、もっともっと日本酒を知らなくてはと思う(一般、女性)。



- ・知人に教えてもらって初めて参加した。日本酒が好きなので、とにかく単純に楽しい。ボトルのラベルの見方について、いろいろ蔵元の人から教えてもらった。ラベルは情報の宝庫。これからラベルを見ながら商品を選ぶのが楽しくなりそうだ。和らぎ水も飲むようにします(一般、女性)。

● 浅見副会長談ーだんだん質の高いイベントになってきた

今回の「日本酒フェア」の来場者の方々と話してみると、日本酒への関心度が非常に高く、深い質問も多い。3回目を数えて、だんだん質の高いイベントになってきたなと感じる。これからも回を重ねて、より広がりや深まりのある会にしたい。反省すべき点はしっかり反省して、我々が主催する側にとってはやり甲斐のある、また参加していただく皆さんにとっては来甲斐のある、そんなイベントに育てていきたいと思う。

各県酒造組合・関連団体の出展風景から *PRAT 1*



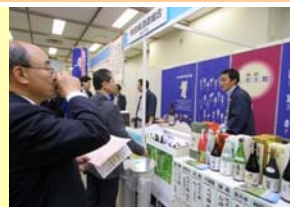
北海道



青森県



岩手県



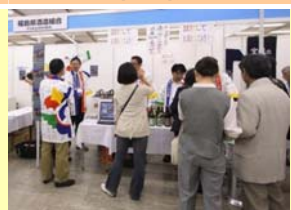
秋田県



宮城県



山形県



福島県



茨城県



栃木県



群馬県



埼玉県



東京都



千葉県



神奈川県



山梨県



長野県



新潟県



福井県



石川県



富山県



静岡県



愛知県



三重県



岐阜県

PRAT 2



滋賀県



京都府



大阪府



奈良県



和歌山県



兵庫県



岡山県



広島県



鳥取県



岩手県



山口県



愛媛県



徳島県



香川県



高知県



福岡県



佐賀県



長崎県



大分県



熊本県



宮崎県



日本酒造青年協議会



日本酒造協同組合連合会



長期熟成酒研究会



日本酒フェア



日本酒フェア



日本酒フェア



日本酒フェア